

2015年

12月号No. 58

12月6日発行



原水協通信 (茨城版)

原水爆禁止茨城県協議会 〒310-0912 茨城県水戸市見川5-127-281 水戸平和会館内
TEL/FAX 029-251-9919 e-mail antiatom-i@email.plala.or.jp 会長 加藤 岑生

頒価 ¥220/月
毎月6日発行

核兵器廃絶署名
48,407筆
(11/30現在)

—担当常任理事会(拡大)報告—

「核兵器廃絶は押しとどめることのできない世界の流れ」
「もはや後戻りをしない」(ナヤリット議長まとめ)地点、人類が、「核脅迫の影」から
出て、「この影を「現在と未来のために排除」(潘基文国連事務総長)歴史的地点にある

去る、11月28日、29日の2日間、担当常任理事会(担当常任理事と各都道府県事務局)の拡大会議が開催。安井事務局長から核兵器をめぐる情勢と課題(2016年を展望して)次のような報告があり、ここでは要約を報告します。

被爆70年の今年、多くの国の政府と市民社会の運動が、核兵器廃絶への「転機」とするために全力をあげ、大きな役割を果たしました。また、「戦争法」、沖縄辺野古新基地建設などをめぐる運動でも奮闘してきました。

核兵器の非人道性への共感が、広島・長崎の被爆を原点とし、被爆者とともに人類の生存と核兵器とが両立しないことを示し、そして、核兵器の全面禁止・廃絶を訴え続けて、今や「核兵器の人的影響」共同声明として国連加盟国の8割、159カ国に。核兵器を「国家安全保障」問題から世界の安全、人類の安全の問題として見直す転機に。

秋の国連総会第一委員会では、「核兵器のない世界」の新しい流れに。核兵器禁止の包括的条約交渉を軍縮会議(CD)で緊急に開始すること、「核兵器禁止・廃絶のための人道的誓約」決議、「核兵器のない世界のための倫理的義務」と題する決議を国連加盟国の3分の2を超える賛成。「多国間軍縮撤廃交渉の前進」決議に7割の賛成、2016年中に国連の補助機関として「オープンエンデット(期限、参加枠をはめない)作業部会を開催し、禁止条約なり、「法的拘束力を持つ文書」の討論を「市民社会の

参加」を重視し始める。

2016年度、原水爆禁止運動の任務は、核の惨禍の国民的体験を原点とする、被爆の実相と核兵器廃絶の声を被爆者とともに内外に広める活動を本的に強め、運動を抜本的に発展させることにあります。被爆の実相の普及、核兵器廃絶の世論と運動、核兵器のない世界のため、日本国の「核の傘」からの離脱、「戦争法」廃止、憲法九条と非核三原則を守り、6・9行動、戦争法に反対する二千万署名、来年七月の歴史的参議院選挙に安倍内閣の暴走を止め、新たな展望を切り開かねばなりません。このような重要な情勢の中、被爆体験とともに被爆者運動が果たしている役割と継承は、被爆者にとどまらず社会的国民的事業であり、原水爆禁止運動にとつても自らの基本目標としての集中討議を提起。

被爆70年を核兵器廃絶の「転機」とする行動(「核兵器全面禁止のアピール」署名・宣伝)を12月の6・9行動から2016年の新春行動に発展させましょう。ちひろカレンダー普及、被爆者援護・連帯募金などの財政活動に全力で取り組みましょう。

新たな署名は国民的な運動として進めるため新たな個人・団体を広く結集する方向で5年後の提NPT再検討会議まで待つてられない情勢だと発言。
*情勢と討論の詳しい内容は県の12月7日開催の第2回常任理事会で報告します。

茨城県には被爆者手帳を所持している方が412名(全国は192,719名。2014年3月現在)います。毎年7月下旬、8・6広島、長崎8・9の被爆の日に向けて、「原爆死没者慰霊式典並びに平和祈念式典」を水戸市駅南平和公園で開催しています(今年の模様は原水協通信・茨城版8月号に掲載)。県原水協では毎年出席して献花、挨拶をしています。

一昨年茨大生が製作した紙芝居(茂木貞夫・茨被爆事務局長の被爆体験)の上演と茂木さんの語りも続けています。今年の憲法フェスティバル原水協テントでも紙芝居と語りをやっていたいただき、参加者に感動と「原爆許すまじ」の心を広げました。

県原水協では、上記「式典」への募金、そして年末に日本原水協統一被爆者募金を行っています。

現在、県原水協は加盟団体の会費(年一口千円)平和行進と原水協世界大会の向けの資料の販売や大会参加者の県分担金、ちひろカレンダーの収益金(一本二百円以内)などの収入で運営していますが、活動費も十分出し切れてない状況です。ぜひ、皆様に年末募金をお願いします。

被爆者とともに、核兵器のない世界を

被爆者援護・連帯募金のお願い

現在、県原水協は加盟団体の会費(年一口千円)平和行進と原水協世界大会の向けの資料の販売や大会参加者の県分担金、ちひろカレンダーの収益金(一本二百円以内)などの収入で運営していますが、活動費も十分出し切れてない状況です。ぜひ、皆様に年末募金をお願いします。

監督の有原さん 非核運動の広さ実感

2015年の国民平和行進を記録したドキュメンタリー映画「一歩でも二歩でも」が完成、都内で試写会をしました。監督は、アニメーション映画で著名な有原誠治さん、制作プロデューサーは昨年、北海道—東京(太平洋コース)を歩いた山口逸郎(83)さん。両氏は、東京—広島コース91日間を参加者と一緒に歩きました。映画は行進者だけでなく、取り組みを支える人々、毎年行進に声援を送っている人との出会い、出迎える自治体の職員、学生たちの発言や様子も記録。行進のいっそうの広がりにより、展望のある運動であることに確信を持ち、核兵器廃絶をめざします。映画は55分。家庭用DVDを4000円(税込)で販売中です。県内各地での平和行進準備実行委員会などで上映をお願いします。小人数での上映会又は、DVDの購入については県原水協へ相談ください。

ダイヤモンド・リリー(ネリネギリシヤ神話の女神)

今月の草花



撮影：柳岡 11.16

「リリー」といいますが、百合の仲間ではなく南アフリカ原産で「ヒガンバナ科」です。一本の茎に6、7輪の花が咲きます。我が家では昨年二鉢買って、一つは知人の誕生日にプレゼントに、もう一つは我が家の庭を彩りました。花卉がキラキラと、ラメのようで妖艶な輝きを見せます。

耐寒力はやや弱く、長雨を嫌います。やや大ぶりのものもあり、色彩も多様です。

花言葉

「また逢う日を楽しみに」「箱入り娘」
我が家とは大違いです。(柳)

常総被災地に立って

愛と平和の「ちひろカレンダー」常総市被災施設贈呈

「平成27年9月関東・東北豪雨」の被災地の常総市被災施設へ訪問し、愛と平和の「ちひろカレンダー」を贈呈し、励ましたいと思えます。

日本原水協はこれまで東日本震災・福島東電原発の放射能被害で仮設住宅の暮らしを余儀なくしている被災者の支援を契機として、各地で起こる災害に苦しむ被災者を明るく希望と平和なくらしを願ひ、全国の原水協のみなさんの協力のもと「ちひろカレンダー」を送ってきました。今年も11月23、24日に福島浜通りの仮設住宅、岩手県などで好評のうちで贈呈しました。

茨城県原水協は常総市の被災施設を訪問し贈呈を実施します。ご協力をお願いします。これまで、被災地支援は各団体のボランティアに献身的に支え



すっかり復旧した決壊箇所(写真上)
いまだに手つかずのまま(写真下)



られ進められています。茨城県原水協としては、加盟団体 茨商連、新婦人の会茨城本部、茨城民医連、茨城農民連などと支援「ちひろカレンダー」の被災地贈呈を県内に呼びかけてきました。また、常総市職員労働組合には被災施設のリストを、茨商連が実際の被災地支援からの被害施設のコメントを頂きました。なお、具体的な贈呈行動を常総市職員労働組合、茨城自治労連と「吉野サポートセンター」と相談を進めてきました。

左記のとおり実施しますのでご協力と当日の参加をお願いします。また、当日は5チームに分かれて被災施設を訪問します。

- ・12月10日(木) 11時から
- 常総市役所庁舎前に集合
- ・小中学校など被災23施設贈呈
- ・本数三百本(各施設10本)
- ・支援金三万円

「訪問記」

11月20日、「関東・東北豪雨」で被災した常総市の施設に「ちひろカレンダー」の贈呈の相談を目的に、加藤会長とともに出発しました。初めにつくば市にある自治労連を訪ね、ちひろカレンダーの取り組み具合がどこまで進捗しているか、また今年の世界大会の冊子の普及状況などを尋ね懇談しました。

次に常総市支援の拠点になっている「吉野サポートセンター」を探しやつと到着。それは急ごしらえの、小さなプレハブでした。

当番の男性の話では、被災当初は大勢のボランティアが来て泥出しなどをしてくれましたが、現在では少人数になつているそうです。作業が減つたわけではなく、要求の内容が変わつてきているのだと。何枚かの写真を見せてもらいましたが、土台から大きく傾いた家々、田んぼの土がすべて削られ流されたり瓦礫で埋まつたり。またコンバインで切った藁がたまってしまった箇所など。こうなると、体力のいる作業がまだまだ求められているようです。

私たちは許可をもらい、工事車両の近くに駐車して付近を見分、決壊箇所はきれいに修復されていました。周辺の建物はまったく手つかずのところもあり、2011年の地震の後のようでした。

センターでは市、県、国にも被災者生活支援法や災害救助法を活用して農業関係者や中小企業への補助を働きかけ、「吉野サポートセンター通信」を発行して住民を励ましています。(柳)

「日本と原発」上映&講演に参加して(主催:石岡市民の会)

11月21日、映画「日本の原発」を石岡のひまわりの館で上映、昼夜合わせて百数十人の観客がありました。以前、内原で130分版を観ましたが、今回は70分版と講演を組み合わせたスタイルでした。

短縮版でも抑えどころがしつかりしていて、とても良かったと思えました。

講演は「放射性廃棄物全国拡散阻止!3・政府交渉ネット」事務局長の藤原寿和さんをお願いしました。

演題は「身近にある放射能ごみの行方」で行われました。放射能ごみは全国に拡散し続けていること、の具体例が、いくつか示されました。庁舎内も当時は床から30〜40cmも浸水したそうです。市にはブラジル人が多く、窓口や他の箇所にもポルトガル語表記も。外国人への緊急時対応も、とても重要と感じました。

編集後記

だいぶ寒くなりました。原水協は個人会員制を入れたとはいえ、風邪を引きそうです。地球環境の変化は常総市の例を引くまでもなく身近な問題です。動植物の南限・北限の変化や気候変動。なかでも「核の冬」の問題を忘れてはいけません。いまだに「核抑止」に固執する核保有国に追随する日本。原発政策の推進は、国民置き去りの沖縄の辺野古基地建設やTPPと符合します。誰が何と言っても「やる時はやる!私が最高責任者だ」と、独裁者は述べています。

来年は参院選。18歳も選挙可能です。戦争については勿論、それまでに若者にも大いに知らせていきましょう。(柳)

した。

① 滋賀県の放射性木材チップ三百の不法投棄、山梨県の富士河口湖町(旧上九一色村)などにも搬入。堆肥や焼却処分された物も。

② 原発由来放射性廃棄物(指定廃棄物)最終処分場建設反対運動が全国で起きている。「指定廃棄物」は百Bq/kgを8千Bq/kgに基準を緩めたこと。

③ また、チェルノブイリ原発事故では五年後に甲状腺がんが発生したが、日本では三年後だから事故とは無関係に。

日本の原発事故への対策には呆れてモノが言えません。それこそ戦争法同様に、何回モチを食べたって忘れることはできません。

ここで取り上げたのは講演のほんの一部ですが、将来への不安を拭くためには「原子力ムラ」の解体と、なんとしても私たちの声が届く政府を作らねばと、つくづく思い知らされました。